

暖地におけるオウトウの品種特性

〔要約〕 オウトウ「高砂」は「佐藤錦」に比べ、果実の大きさはやや小さいものの収量が多く、また成熟も早いため、栽培に適した品種である。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成6年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

これまで本県ではオウトウの栽培事例はほとんどなく、その栽培性は不明な点が多かった。そこで、屋根かけハウスを使って栽培に適した品種を選定した。

〔成果の内容・特徴〕

- ①「高砂」は「佐藤錦」に比べ、展葉期が8日、満開期が3日早く、成熟期も13日程度早い。
- ②収量は「高砂」の方が著しく多い。
- ③「高砂」は「佐藤錦」と比べ、糖度が高いが、酸がやや多く、果実が小さく、種子はやや大きい。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①オウトウを導入する場合、単一品種のみでは結実率が悪くなるので、必ず複数の品種を入れる。
- ②収穫時期に降雨があると裂果するので、屋根かけ栽培とする。

[具体的データ]

表 1 生育相調査² (月.日)

品 種	展葉期	満開期	成熟期
高 砂	4. 3	4.11	5.28
佐藤錦	4.11	4.14	6.10

² 1991～1994年の平均値

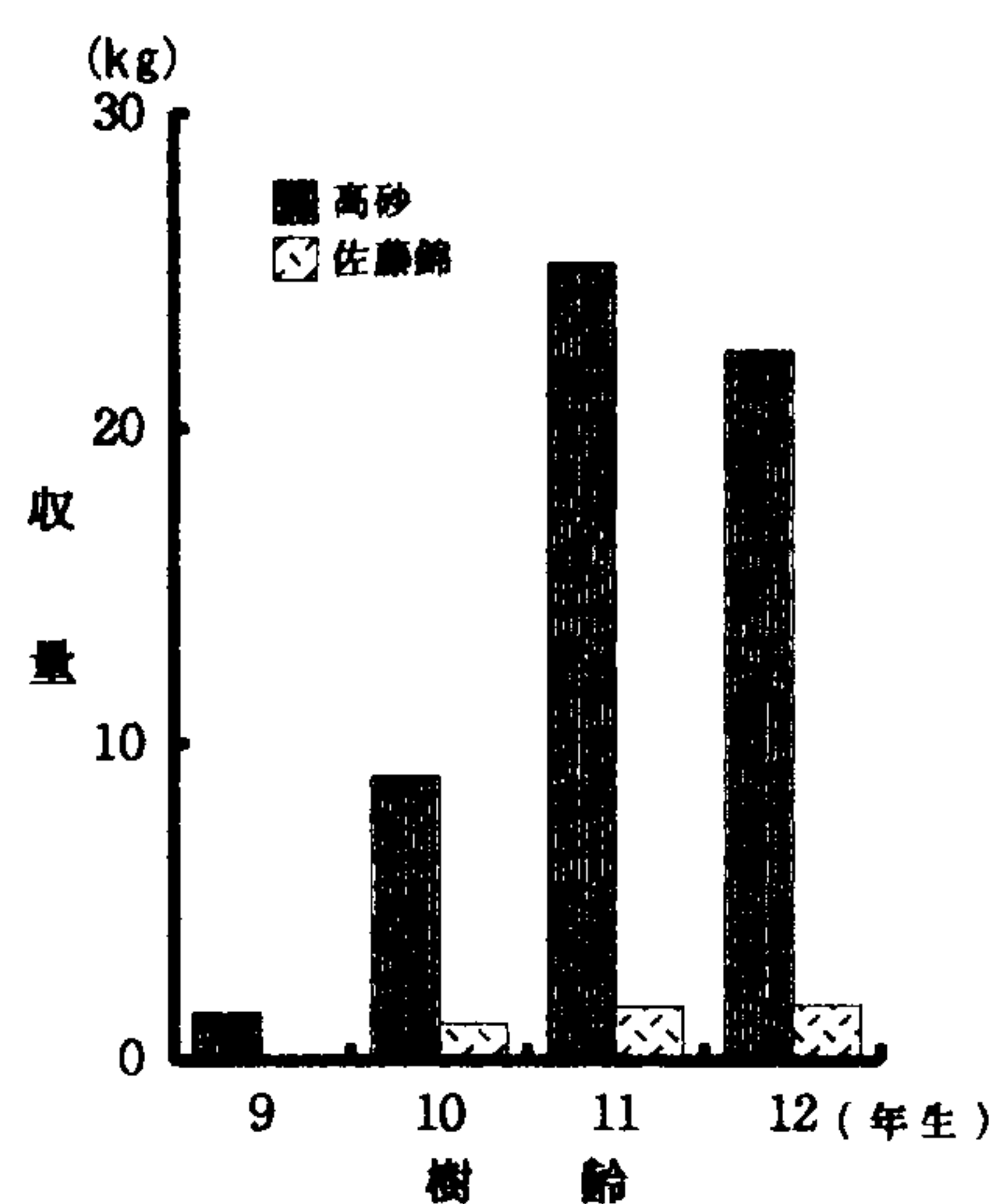


図 1 収量の経年変化

表 2 果実品質²

品 種	果実重 (g)	種子重 (g)	糖 度	酸含量 (g/100ml)
高 砂	5.72	0.44	18.3	1.43
佐藤錦	7.04	0.26	17.6	1.12

² 1991～1994年の平均値

[その他]

研究課題名：特定果樹の栽培に関する試験

予算区分：県単

研究期間：平成6年度（昭和58年～）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：平成6年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：結実率の向上，初期収量確保のための栽培法の検討